

大阪・大坂城跡

おおさかじょう

おおさかじょう

所在地 大阪市中央区大手前一丁目・谷町一丁目

調査期間 0500—五一次調査 二〇〇一年(平13)一月

発掘機関 (財)大阪市文化財協会

調査担当者 佐藤 隆

遺跡の種類 城郭跡

遺跡の年代 安土桃山時代

遺跡及び木簡出土遺構の概要

調査地は、豊臣氏大坂城惣構の北端部にある水成層から、大川に面した低湿な環境

を克服するための労力が費

やされていたことがわかる。

豊臣前期と考えられる遺

構面を二面、豊臣後期の遺

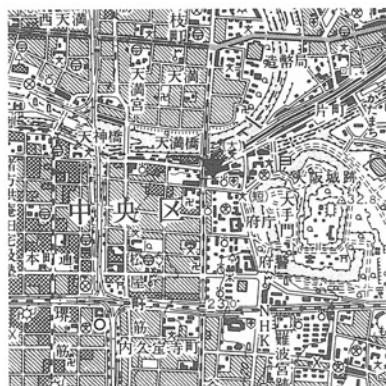
構面を一面調査した。前者

では礎石建物や溝を、後者

では四〇m²の調査区のほぼ

全域にわたる大土坑のほか、

数基の小さな土坑を検出し



(大阪東北部)

た。豊臣後期の大土坑SK—〇二は、南北の肩は検出されたが東西は調査区外に延びているため流路の可能性もある。出土した遺物には土器・陶磁器・木製品・金属製品・石製品・貝・魚骨などのほか多量の部材片や木くずがある。木簡三点はすべてこのSK—〇二から出土している。

8 木簡の积文・内容

(1) 「○□○ ふし入 □○

○○」

(2) 「□□

○○」

(105)×20×3 019

(3) 「金将」

30×29×12 061

148×73×10 065

(1)は板の周囲九個所と中央の一個所に釘穴と考えられる小孔があり、箱などに付けられていたと考えられる。

(2)は付札と考えられ墨書があるのは確認できるが、残りが悪く判読は不可能である。

(3)は将棋の駒である。文字は漆で書かれている。

9 関係文献

大阪市文化財協会「近畿興業株式会社による建設工事に伴う大阪城跡発掘調査(0500—五二)報告書」

(佐藤 隆)